

研究区分	教員特別研究推進（独創・先進的研究）
------	--------------------

研 究 テーマ	「転倒のコンピテンス測定ツール『Stromqvist Baathe Falling Competence Test』（SBFC-Test）の3か国語への翻訳とその妥当性の検証」				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	竹熊 カツマタ 麻子
	研究協力者	所属・職名	Dalarna University (Sweden)	氏名	Karin Stromqvist Baathe,
		所属・職名	津田塾大学 学芸学部 ・准教授	氏名	Maya Sori Doval、PhD
		所属・職名	甲南大学・教授	氏名	曾我部 晋哉
	発 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	竹熊 カツマタ 麻子

講演題目
「転倒のコンピテンス測定ツール『Stromqvist Baathe Falling Competence Test』（SBFC-Test）の3か国語への翻訳とその妥当性の検証
研究の目的、成果及び今後の展望
概要：高齢者の転倒は、健康長寿（Healthy Ageing）と自立した生活の継続を脅かす世界的な公衆衛生課題である。近年では、転倒予防に加え、転倒時の外傷軽減（injury mitigation）や安全な転び方（safe falling）への関心が高まっている。こうした背景のもと、柔道の受身技術を応用した転倒予防・外傷軽減プログラムが世界各地で開発されているが、その有効性を評価するための標準化された測定方法は十分に確立されておらず、介入効果に関するエビデンスも限定的である。 本研究は、転倒予防プログラム等の介入効果を評価するための転倒コンピテンス測定ツールである Stromqvist Baathe Falling Competence Test（SBFC-Test）の英語版、スペイン語版および日本語版を作成するとともに、その信頼性および妥当性を検証することを目的としている。本研究により、国際的に共通して利用可能な評価指標の整備が進むことで、柔道の受身技術を活用した介入プログラムの効果検証が促進されることが期待される。また、多言語版尺度の整備は国際比較研究を可能にし、高齢者の転倒予防および外傷軽減に関するエビデンスの蓄積に貢献するものと考えられる。 令和8年度は、スウェーデン、スペイン、オーストラリアおよび日本の研究者による国際共同研究として、SBFC-Testのスウェーデン語版を基盤に各言語版の作成を行った。日本語版については、研究者3名が独立して翻訳を行い、逆翻訳および開発者を含む研究チームによる検討を経て、原版との言語的・概念的等価性を確認した。 SBFC-Testの信頼性および妥当性の検証については、英語版を用いてオーストラリアの研究グループが実施した。一方、日本語版については転倒予防プログラムの評価ツールとして活用しているものの、研究実施体制の整備に時間を要したため、令和7年度中の検証研究の完了には至らなかった。しかしながら、日本語版の作成により今後の信頼性・妥当性検証研究を実施する基盤が整備され、多施設共同研究への発展が期待される。 さらに、本研究は高齢者の「転倒コンピテンス（Falling Competence）」という新たな概念の測定に寄与するものであり、転倒予防研究の発展に重要な役割を果たすことが期待される。今後も国際共同研究を継続し、日本語版の検証を進めるとともに、学会発表および学術論文を通じて成果を公表する予定である。